

平成 28 年度広島市まちづくり市民交流プラザ運営委員会 第 3 回運営委員会 会議録

日 時 平成 29 年 2 月 17 日(金) 10 時 00 分～12 時 00 分

場 所 合人社ウエンディひと・まちプラザ（まちづくり市民交流プラザ）南棟 4 階協議室

出席者 （委 員）柿本委員長、脇谷副委員長、阿部委員、東委員、弘中委員
（プラザ）津田館長、樋口主任

議事及び会議要旨

議事 1 平成 28 年度事業の進捗状況について

事務局から、平成 28 年度事業の 1 月末現在の実施状況を報告し、意見が交わされた。

- ・全体的に参加者の満足度が高い。
- 事業によって満足度の高低はある。80%を超えている事業は満足度が高かったと考えていいように思う。
- ・パソコン講座の参加者が減ってきているようだが、スマートフォンの悩み事相談室は人気があると聞いたので、参考にしてみるとよいと思う。
- ・今は SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の活用も増えている。
- プラザに「フェイスブックの講座は実施しないのか」と市民から問い合わせがあった。パソコン講座では実施していないが、市民活動に携わる人を対象とした講座の中で SNS の活用について学習するプログラムを提供したところ、多くの申込みがあった。
- ・相談会事業を開催する中で、「どこで学べるのか分からない」という人や、退職後に学びたい気持ちはあっても踏み出せない人が多いと感じる。
- ・企業団体との連携事業「ストレスに強い子どもを育む親の講座」は、小学校を通じて保護者に広報するとよい。ストレスの強い子どもは増えている。
- ・「企業等社会貢献活動研究会」の参加企業の広がりが必要。また、類似した組織とのジョイントや連携を考えてみるのもよいのではないか。
- ・人材育成講座は市民団体のニーズが高いように思うので、公民館や社会福祉協議会などにもっと情報を届ける必要がある。定員 20 名を超えるものも多いようだが、リピーターだけでなく新規申込み者の枠を設けるなど、新たな参加者が増えるような工夫があってもよい。
- 入館者数は 1 月末時点で昨年度よりも約 2 千人の減少となっている。主な要因としてはパソコン講座の講座数及び実施回数が減ったことによる参加者の減少が上げられる。昨年度から 3 講座（22 回）の減少である。

議事 2 平成 29 年度事業計画案について

事務局から、平成 29 年度の事業計画について説明し、意見が交わされた。

- まちづくりボランティア人材バンク設立 20 周年記念事業がないだけで、来年度の事業計画は今年度と同じである。

○パソコン学習支援事業は、今年度よりも講座数が減る予定である。連携するICT学習支援団体がメンバーの固定化や高齢化という問題を抱えているため、新規加入者を確保し安定的に団体運営できるように支援したいと考えている。

まちづくりワークショップは、各区のまちづくり活動団体や区役所のまちづくり推進担当職員等といっしょに、活動上の課題解決に向けたワークショップを開催することを検討している。

市民活動きっかけづくり講座は、環境美化活動に取り組む市民グループと連携して、街中の花と緑のまちづくりをテーマに開催し、終了後は当市民グループに加入して活動できるような仕組みを考えている。

- ・まちづくりワークショップは、テーマを設定して各区のまちづくり活動の課題解決を図ると面白い。フェスタについては、小学校だけでなく中学校との連携もよいのではないか。「ふれあい活動推進協議会」との連携を考えてみてはどうか。

○フェスタについては、今年度はじめて小学校と連携したが、今後連携の範囲を広げていきたいと考えている。

- ・PTAなどは、新たな行事が加わることに負担感があり敬遠されるかもしれないが、既存の活動の連携であれば可能だと思う。
- ・人材育成に関しては、学習した人がその後どのように学びを生かして活躍しているのかが見えないとの話があるが、老人会等の地域のお世話をする人が減っているという状況がある。老人会の会員自体が減っており、特に男性は女性に比べて退職後に地域デビューができない人が多いようだ。どうすればいいのか答えは見つからないが、プラザの講座等を通じて少しずつ人材は育っていくのだと思う。
- ・事業経費は今年度と同額か。

○ほぼ同額である。

議事3 まちづくり市民交流フェスタ及びまちづくりボランティア人材バンク設立20周年記念事業の実施結果について

事務局から、市民交流フェスタ及び人材バンク設立20周年記念事業のアンケート結果を報告し、意見が交わされた。

(市民交流フェスタ)

- ・スタンプラリーの実施などにより、来場者に会場全体を巡ってもらうことができた。
- ・各団体の広報にばらつきがあった。団体が行う広報とフェスタ全体の広報の両方が大切である。
- ・今後はフェスタの中身をより良くしていく段階である。リピーターが足を運んでくれるようなフェスタになるとよい。参加団体の関係者は来場していると思うが、今回足を運んでくれた人に来年も来てもらえるよう、質の向上に取り組む必要がある。
- ・南棟1階と北棟4階にステージがあり、発表時間が重なっていたのが気になった。
- ・南棟1階ステージは観客が少なかった。次の出演との間に30分の休憩があったため、観客が帰

ってしまったようだ。

- ・出演を30分間隔としたのは、来場者がステージに留まるのではなく他の会場も巡ってもらうことを狙ったこと。各コーナーで人を集めれば、他のコーナーも見てもらえる。
- 例えば2～3団体が続けて発表し休憩を入れるという方法でも良いかもしれない。
- ・会場のレイアウトについては、ガラス張りで外から目立つ南棟1階ロビーに、ステージではなく展示コーナーを設置してみるのも一案である。
 - ・案内ガイドのスタッフがいるとよかった。「こちらへどうぞ」と誘導してくれると巡りやすい。来年度、高校生などを対象にボランティアガイドを募集することを検討してはどうか。
 - ・公共施設は型にはめた内容となりやすい。少し冒険をしてみてもよいかもしれない。面白さは必要である。
 - ・コスプレやカープに関するコーナーがあると人が集まるとの事例がある。こういったことも取り入れてみると盛り上がりが出るのではないか。
 - ・今回は従来のフェスタから変更した部分もある。毎年ころころと変えるのではなく、様子を見ながら少しずつ改善していくとよい。

(人材バンク設立20周年記念事業 講演会)

- ・予想よりも参加者が少なかったように感じた。
- ・若い人には知られていない講師のため、学生たちに参加を促すのは難しかった。誰をターゲットにするかによって人選は異なるが、今回のアンケート結果を見ると講演の内容は大変好評だったため、人材バンク設立20周年記念の講演会としては良かったのではないか。
- ・広報をどのように行ったかもある。若い人に参加を促すのであれば、やはりSNSの活用を考えていく必要がある。

【次回の運営委員会】

平成29年6月16日(金)午後5時～7時 予定

閉会